

新湊 曳山祭

放生津八幡宮
秋季例大祭

毎年10月1日に開催される新湊曳山祭は、放生津八幡宮の秋季例大祭の祭事ひとつです。曳山囃子の音色が響き渡る中、勇壮な13基の曳山が「イヤサー・イヤサー」のかけ声を響かせ、昼は「花山」夜は「提灯山」に装いを変え、町中を練り歩きます。

この13基の曳山が列を連れ、狭い街角を曲がるときの勇壮さは絶好のみどころです。また、夜の提灯山が内川の水面に映り、幻想的な姿も見せてくれます。



お祭りの雰囲気を映像で
新湊曳山祭りPR動画▶



花山

日中の曳山は「花山」と呼ばれ30本あまりの花枝で整えた「花傘」で飾られます。

提灯山

夕方になると花傘を外し、上部を250個あまりの提灯で覆った「提灯山」に装いを改めます。提灯山が一斉に点灯する光景は幻想的で見どころの一つです。



曳山囃子について

曳山は、下山に乗った笛・太鼓・鉦の囃子方(三味線が入る町もある)が曳山囃子を奏でながら巡行します。各町でそれぞれ違ったお囃子が継承されており、厳かな曲から賑やかな曲、落ち着いた曲まで、多種多様な曲調があるのも、この祭りの魅力の一つです。

本囃子

落ち着いた曲調のお囃子で、正式なお囃子とされています。主に八幡宮から出発する際や、他の町内に入る際に演奏されます。

雑曲

巡行中の場面にに応じて演奏される、様々な曲調の曲。角回しで奏でられる「弥栄」や、前人形がかわせて動く「チンチコ」など、見どころが沢山詰まっています。



角回し

町中の曲がり角を曲がる「角回し」。徐々にテンポが早くなる「弥栄」にあわせて、威勢の良いかけ声と共に勇壮に曲がっていきます。曳山の舵取りは「浜」「田んぼ」などの掛け声で指示しています。

「チンチコ」

雑曲のひとつで、ご祝儀をいただいた際に、その場で演奏されます。中山に乗ったからくり人形「前人形」が、このチンチコの演奏にあわせて可愛く動く姿は、新湊曳山祭の特徴のひとつ。お囃子とあわせて、各町ごとに異なる前人形も比べてみてください。



放生津八幡宮について

746年、越中国守大伴家持の勧請により建てられたとされる、応神天皇を祀る八幡宮。町民からの信仰が厚く、町の歴史・文化の発展の中心を担ってきました。「築山」と「曳山」などを行う秋季祭礼は、今でも町民にとって非常に大切な祭事として今日まで継承されています。



築山 (10月2日)

放生津八幡宮
公式Instagram



新湊曳山祭



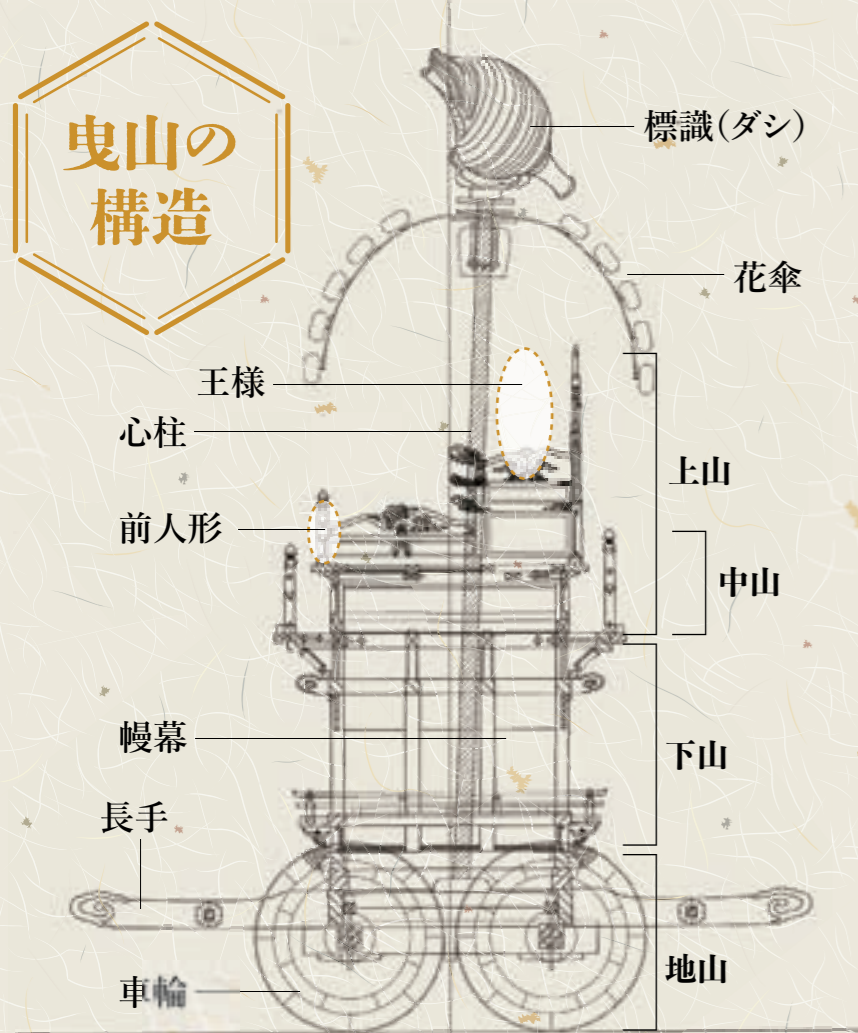
毎年10月1日開催

勇壮な中にも絢爛豪華な曳山を
典雅な曳山囃子とともに
みなとまちを曳き廻す

夏の暑さが過ぎた10月1日、華々しくも勇壮な13基の曳山が、新湊の港町を曳き廻る「新湊曳山祭」。町民の手により飾り付けられた曳山が、昼と夜とで表情を変え、お囃子を響かせながら動く姿は、まさに絢爛豪華そのもの。町の文化の結晶を、その目で体感してみませんか。

射水市 観光まちづくり課
TEL 0766-51-6676
(一社)射水市観光協会
TEL 0766-84-4649





新湊の曳山は、中央の心柱を標識(ダシ)と花傘で飾った「花傘山」と呼ばれ、その全高はおよそ8mにも及びます。各町が趣向を凝らした飾り付けで、個性豊かな曳山に仕上げられています。



王様

各町の守護神として、曳山の上山に乗る等身大の人形。日本や中国の神・武将をモチーフにしています。



前人形

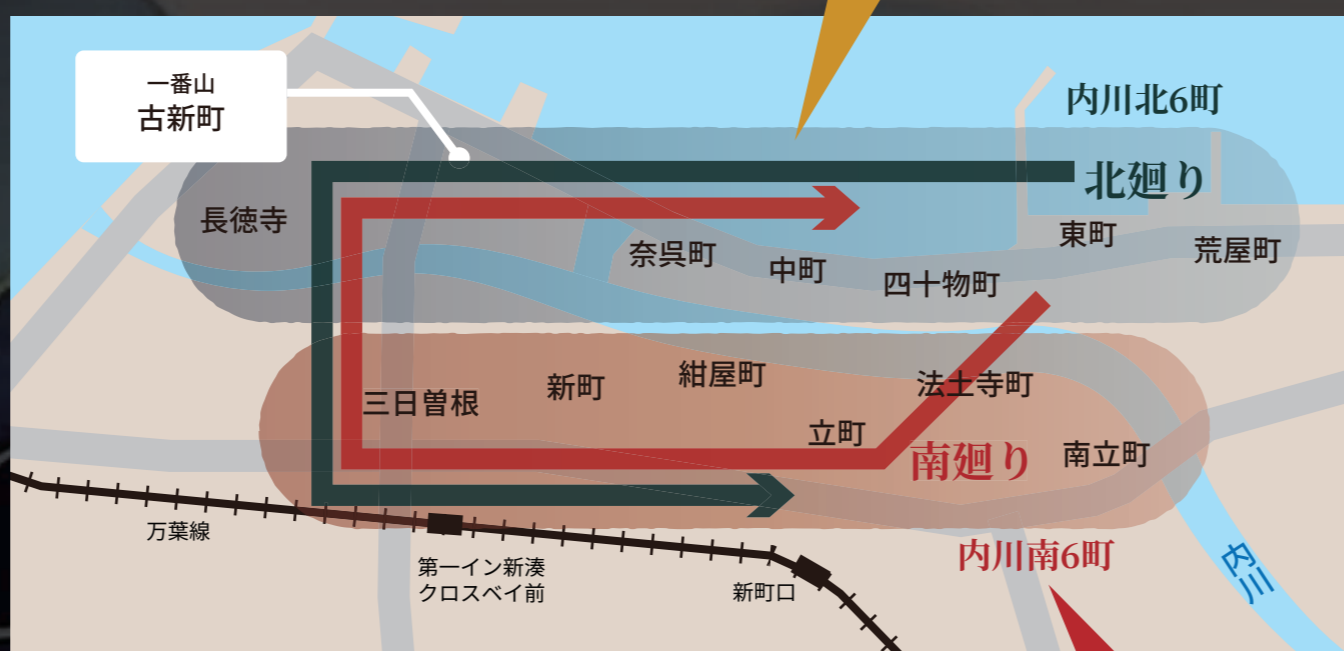
曳山の中山に置かれる人形。ご祝儀を頂く「チンチコ」のお囃子にあわせて可愛く動きます。



標識(ダシ)

曳山の最上部に飾り付けられる、各町のシンボル。これだけで2m近くの大きさを誇る曳山もあります。

<p>くじのけ 一番山 ふるしんまち 古新町 創建:慶安3年(1650)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>しょうかつこうめい 諸葛孔明 からこの 唐子の たいこたたき 太鼓叩き</p> <p>【標識】 これい 鉦鈴</p>	<p>ちょうとくじ 長徳寺 創建:安永2年頃(1773)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>じんむてんのう 神武天皇 からこあそび 唐子遊び</p> <p>【標識】 あげはちよう 揚羽蝶</p>	<p>なごまち 奈呉町 創建:元禄5年(1692)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>えびす 恵比須 からこあそび 唐子遊び</p> <p>【標識】 しやくじよう 錫杖</p>	<p>なかまち 中町 創建:元禄5年(1692)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>じゅうろしん 寿老人 からこ 唐子(4体)</p> <p>【標識】 じゅうろしんとしょうかく 寿老人と松鶴</p>	<p>あいのちよう 四十物町 創建:享保3年(1718)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>まくじどう 菊慈童 さんばそう 三番叟</p> <p>【標識】 うちでのこづち 打出の小槌</p>	<p>ひがしまち 東町 創建:享保3年(1718)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>じょうとらば 尉と姥 さんばそう 三番叟</p> <p>【標識】 かんこのとり 諫鼓の鳥</p>	<p>あらかまち 荒屋町 創建:明和7年(1770)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>だいこく 大黒 からこけんすいかいてん 唐子懸垂回転</p> <p>【標識】 せんまいふんどう 千枚分銅</p>
---	--	---	--	--	--	---



※矢印はイメージです。詳細な経路はWEBページよりご確認ください。

巡行経路・並び順について

曳山の巡行順は、江戸時代から続く「鬨(くじ)取式」で決まります。内川を挟んで南北各6町を2~7番までの「前山(さきやま)」と、8~13番の「後山(あとやま)」に分けて、それぞれくじを引き順番を決めます。その年「前山」にあたる6町には昼の花山が巡行し「後山」にあたる6町には夜の提灯山が巡行します。毎年、前山と後山は入れ替わり、どちらかに花山だけが巡行することがないようになっており、毎年交互に経路を入れ替えて巡行します。また、新湊曳山祭の創始といわれる古新町は、くじのけ(くじを引かない)で毎年先頭に固定されています。内川北6町が前山の年は北廻り、内川南6町が前山の年は南廻りの経路となります。

<p>みっかそね 三日曾根 創建:享保6年(1721)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>ほてい 布袋 からこけんすいかいてん 唐子懸垂回転</p> <p>【標識】 わどろかいほう 和同開珎</p>	<p>しんまち 新町 創建:正徳5年(1715)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>じんぐうこうごう 神功皇后 たけのうちのすくね 武内宿禰</p> <p>【標識】 ほらがい 法螺貝</p>	<p>こんやまち 紺屋町 創建:寛政元年(1789)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>やまとたけるのみこと 日本武尊 みこ 巫子</p> <p>【標識】 ふりこ 振鼓</p>	<p>たてまち 立町 創建:享保6年(1721)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>こうし 孔子 えてこうの 猿公の たいこたたき 太鼓叩き</p> <p>【標識】 ことぶき 壽</p>	<p>ほうどしまち 法土寺町 創建:明和年間(1764~)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>かんろう 関羽 ちようひ 張飛 えてこう 猿公</p> <p>【標識】 ぐんばい 軍配</p>	<p>みなみたまち 南立町 創建:文久2年(1862)</p> <p>【王様】 【前人形】</p> <p>すみよしだいみょうじん 住吉大明神 からこあそび 唐子遊び</p> <p>【標識】 ごさんのきり 五三の桐</p>
--	--	---	--	---	---

鬨取式 (くじとりしき)

8月初めの大安の日に行われる鬨取り式は、曳山祭関係者が集い、厳かな雰囲気の中、祭りの安全を祈願します。

